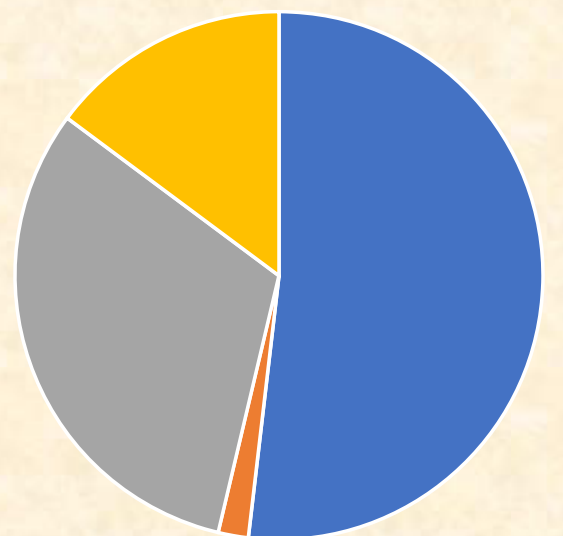


アフリカ諸国の曖昧な態度の背景にあるもの

武内進一
(東京外国語大学)

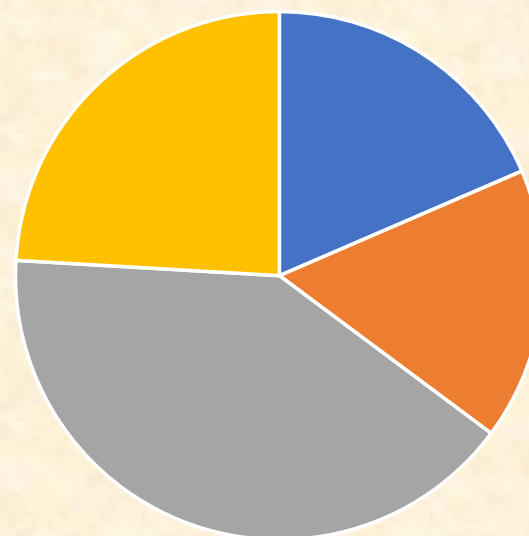
西側とは異なるアフリカ諸国の投票行動

アフリカ54ヶ国の国連総会での投票行動
(2022年3月2日 対露非難決議)



■ 賛成 ■ 反対 ■ 棄権 ■ 無投票

アフリカ54ヶ国の国連総会での投票行動
(2022年4月7日 人権委員会露資格停止)



■ 賛成 ■ 反対 ■ 棄権 ■ 無投票

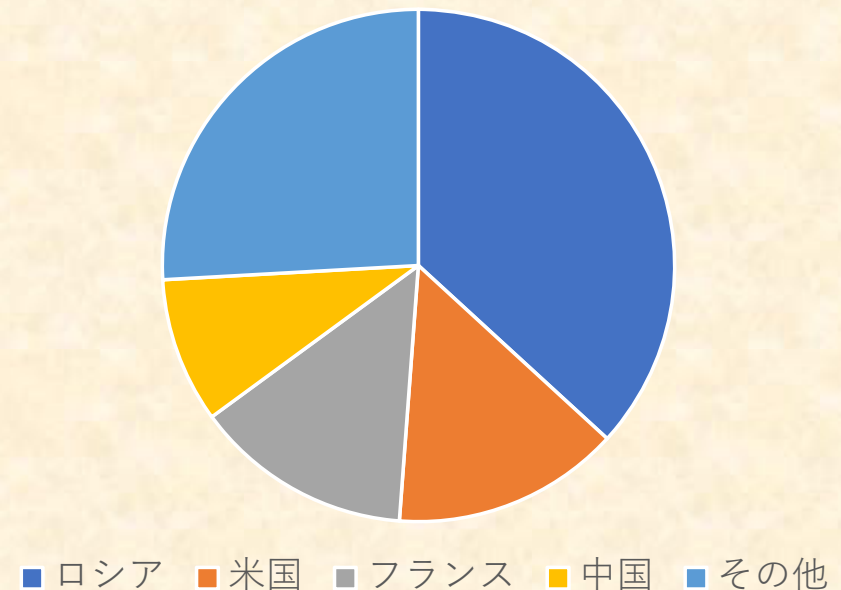
アフリカ諸国の投票行動をどう説明するか？

- 国家主権、領土的一体性、国連憲章に対するあからさまな違反
 - 2022年2月ケニア国連大使の演説
- それに対する融和的姿勢
- ロシアを非難したくない
- 西側に同調したくない

ロシアの影響力が強まっているのか？

- 歴史的なつながり
 - ソ連時代
- 軍事面で強い影響力を持つ
 - 武器取引
 - 傭兵派遣
 - ワグネル：中央アフリカ、リビア、マリ
- 情報戦

アフリカ諸国の兵器調達先
(2010-2021年)



出所：SIPRI統計から作成

軍事的影響力から投票行動を説明できる国は一部

- 武器購入額の大きさと影響力の大きさとは、直接結びつかない
- 軍事的依存度が高いサブサハラアフリカ諸国への影響力は認められる。
 - 紛争影響国に影響を強めるパターン

ロシアからの武器購入額上位10ヶ国（2010-2021年）				
	購入総額	うちロシア	%	3月2日投票
アルジェリア	11,008	7,925	72%	棄権
エジプト	13,612	4,366	32%	賛成
ウガンダ	886	611	69%	棄権
アンゴラ	832	501	60%	棄権
スーダン	995	313	31%	棄権
ナイジェリア	1,245	249	20%	賛成
エチオピア	743	123	17%	無投票
南スーダン	134	82	61%	棄権
マリ	187	73	39%	棄権
南アフリカ	578	50	9%	棄権
	30,220	14,293		
アフリカ全体に占める割合	76%	98%		
出所：SIPRIデータから作成				
注：単位はSIPRIの推計値（百万TIV）				

ロシアの影響力がアフリカの投票行動を変えた、という見立ては妥当か？

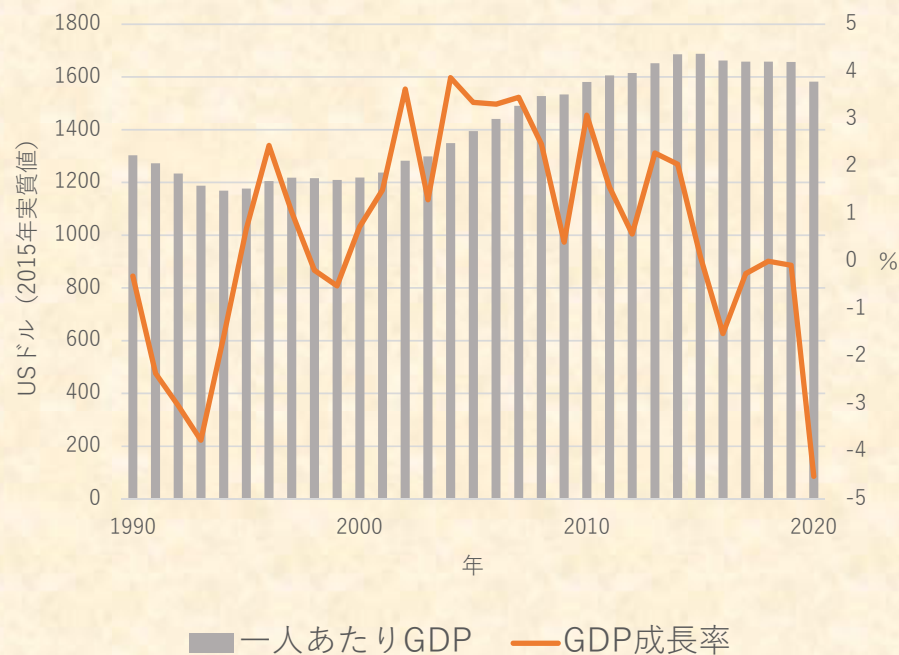
- ロシアの影響力はどこまで強い？
 - 貿易額で見れば中国の10分の1。トルコ、ブラジル並み
- 「反対」や「棄権」はどこまで親ロシアを意味するのか？
 - エリトリアの総会演説
 - 国連憲章諸原則を確認しつつ、一方的な経済制裁に反対する、として反対投票
 - アルジェリア、南ア等
 - 国連憲章尊重を強調

ロシアと深い関係になく、国際法や国際人権法の尊重を訴えるのに、なぜロシア非難決議に賛成しないのか？

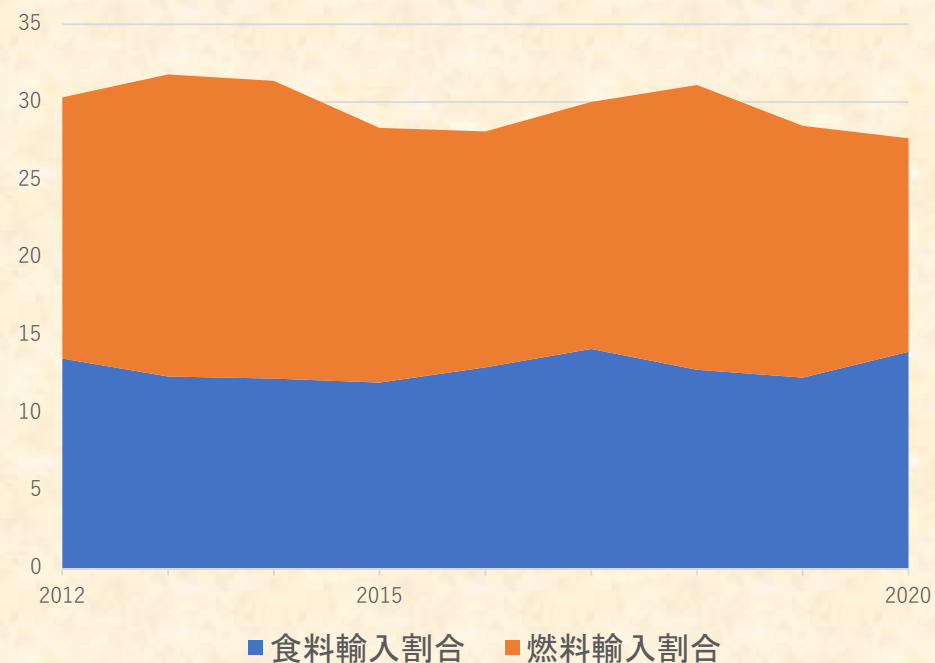
- 消極的理由
 - 目下の社会経済危機
- 積極的理由
 - 外交戦略

経済危機と食料・エネルギー依存

サブサハラアフリカ諸国の一人あたりGDP
およびGDP成長率（1990-2020年）



サブサハラアフリカ諸国の輸入総額に占める食料と燃料の
割合（2012-2020年）



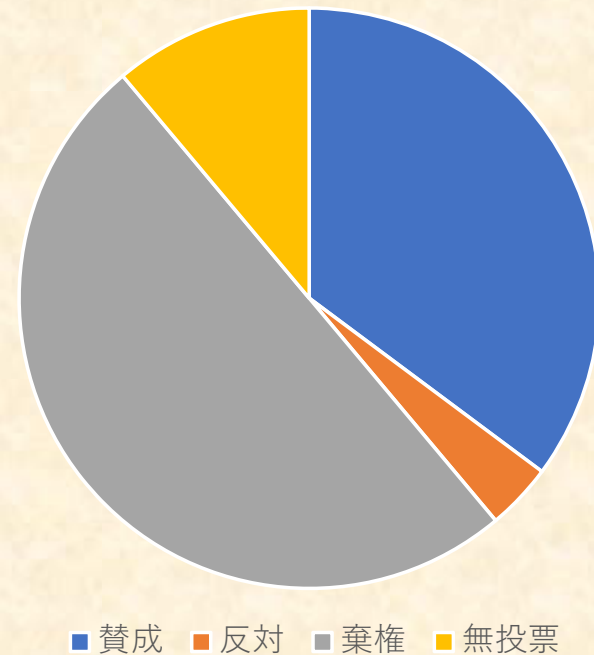
サル・セネガル大統領（AU議長）の プーチン大統領との面会後の発言

- 「まずは戦争を止めて、話し合ってくれということだ。我々は、誰が間違っているとか、誰が正しいとかいう議論をしてはいない。穀物と肥料へのアクセスがほしいだけだ。」（2022年6月10日付ルモンド）

アフリカ諸国の外交戦略

- 曖昧な態度は今回が初めてではない。

アフリカ54ヶ国の投票行動
(2014年4月1日 ウクライナの領土的一体性確認)



「非同盟運動」の強調

- 南ア・ボーツ国際関係・協力副大臣
 - 「南アフリカは、ウクライナ戦争に中立的な立場を取っているのではなく、覇権争いをする大国と一線を画す非同盟運動の立場を取っている」（5月16日付 Daily Maverick）
- エジプトの元外務次官フセイン・ハリディ氏
 - 「この新冷戦の状況の中で、エジプトなど『第三世界』の国々は自らの立ち位置を決めなければならない。それは『非同盟』を宣言することだ」（8月20日付朝日新聞）

なぜ「非同盟」が強調されるのか？

- 独自の外交路線を正当化する論理
- 西側諸国と同じ態度を取りたくない理由
 - 西側の路線に盲従することの危険性
 - パレスチナ問題
 - イラク戦争（2003年）
 - リビア内戦（2011年）
- 「自由」や「民主主義」の価値観の否定ではない。
- 既存の国際秩序への疑義